

6月2～3日にかけて行われたピレリ・スーパー耐久シリーズ第3戦富士SUPER TEC 24時間レースは国内で10年ぶり、富士で51年ぶりの24時間レースということで注目の一戦となりました。今回はレギュラードライバーの村上、脇谷、雨宮に加え現在、MX-5カップでも活躍中の若手の吉田選手、パーティーレースで活躍中S耐デビュー戦の杉野選手、もうひとりも50歳でS耐デビューの中根選手を加えた6名で戦います。



● 5月31日木曜日 公式練習

他のチームがレースカーの消耗を考えあまり走らない中、うちは経験値の少ないドライバーを精力的に走らせた。その中で燃費やタイヤの消費などもしっかりデータを蓄積していきます。タイムも全セッショントップタイムで車両の仕上がりも上々です。そんな中、昨年の悪夢がよみがえるパワステが壊れる症状が出る。メカニックがすべてのパーツを再チェックして無事に解決してくれました。

● 6月1日金曜日 公式予選

天候は快晴。12時からの予選は24時間の長丁場ですのであまり重視してなく、Aドライバーの村上がクラス3位、雨宮選手が4位で合算でクラス3位からスタートになります。あとはドライバー交代の手順などを念入りに確認して早めに切り上げて24時間レースに備えます。予選 ST5クラス 3位

● 6月2～3日 24時間レース決勝

土曜日の15時から24時レースです。天気は快晴で最高のレース日和でたくさんの観客が見守る中、スタートドライバーは村上が務めます。上手くスタートを決めて序盤にクラストップに立ちますがベース配分に悩み一旦二位に引いて燃費走行に切り替えます。走りながら思ったより全体のペースが遅い。ライバルチームも24時間レースと言うことで序盤は様子見してるのを感じたので無線でメカと相談して作戦を変更。ペースが遅いプレッシャーの少ないうちに初参戦の中根、杉野を走らせた。夜間になり気温も下がりますべてに負担が少なくなるタイミングで脇谷、雨宮、吉田、村上で一気にペースを上げていき、早朝になり幻想的な富士山を眺めながら村上がベストラップを更新しながら首位に立ちます。メカニックたちも睡魔と戦いながらメンテナンスタイムも完璧にこなしてくれました。終始燃料が入らないトラブルを抱えており、燃費的にかなり厳しく予定より給油が1回増えると言うことでラスト3時間で2位と同一周回数で勝負という息をのむ展開を覚悟しますが、最高のタイミングでセーフティカーが入り村上から給油を済ませ吉田にドライバーチェンジしてコースに戻ります。ラスト1時間15分は雨宮選手が安定したラップを刻みますがコース上では満身創痍な車両が止まる模様がモニターに飛び込んできます。「無事に戻ってくれ」と祈りながらチーム全員でモニターを眺めながら日曜日の15時にチェッカーを受けて24時間レースクラス608ラップを走り2位と2周差をつけて優勝を決めました。

決勝 ST5クラス 1位

● 総括 チームオーナー兼ドライバー 村上

今回の24時間レースは国内で10年ぶり、富士で51年ぶりの24時間レースということで我々は経験がない初の挑戦でした。その中で各ドライバーも決め事をしっかり守ってくれて、またメカニックも完璧な作業で安心して車を走らせてくれました。この優勝はドライバーだけでなくメカニック、スタッフ全員が最高の仕事をした結果です。プライベートチームとして挑戦してますがこういう大舞台でも自分達の力が通用すると言うのは自信になりますし、本当に良いチームになったと感じます。スポンサー様をはじめたくさんのファンに応援して頂いてるのも肌で感じて本当に感謝です。マツダのルマン24時間レースの優勝を観て「いつか自分も24時間レース」と思ったことが現実になり歴史的な勝利を得て夢の様です。また、次の夢に向かって挑戦します。

